

アート・リサーチセンター活動記録

———2005年度 (2006年1月～3月)

■シンポジウム『モーションキャプチャ技術と身体動作処理』

2006年1月13日(金) 創思館1F カンファレンスルーム

「舞踊のデジタルアーカイブ」

報告者：八村広三郎(情報理工学部教授)

「モーションキャプチャと生体情報の同時計測による舞踊動作の定量化」

報告者：崔雄(立命館大学COE推進機構ポストドクトラルフェロー)

「日本古典舞踊上方舞の『らせん動作』とイタリア宮廷舞踊バッサダンツァの『ゴンドラ波動作』の解析」

報告者：吉村ミツ(立命館大学COE推進機構教授)

「国宝・能舞台のデジタル再現とその応用」

報告者：古川耕平(立命館大学COE推進機構ポストドクトラルフェロー)

招待講演「モーションキャプチャーをつかって人間の体性感覚情報を推定する」

講師：中村仁彦(東京大学情報理工学系研究科知能機械情報学教授)

特別講演「筋骨格モデル解析システム(SIMM)の最新情報」

講師：藤田義彦((株)ナックイメージテクノロジー)

「日本大学ORCNANAプロジェクトのモーションキャプチャを用いた舞踊研究」

報告者：三戸勇氣、篠田之孝、渡沼玲史、丸茂祐佳(日本大学)

「伝統芸能における歩行動作の分析について」

報告者：小島一成(神奈川工科大学助教授)

「舞踊の電子テキスト研究—文理融合型の民族舞踊研究という視点から」

報告者：中村美奈子(お茶の水女子大学助教授)

「日本舞踊における目遣いの定量化—アイマークレコーダとモーションキャプチャによる視線と身体動作の同時計測—」

報告者：阪田真己子(同志社大学文化情報学部専任講師)

■21世紀COEプログラム『デジタル技術の文化財復原への応用』

2006年1月16日(月) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「デジタル時代の考古学」

講師：サイモン・ケイナ(セインズベリ日本芸術・文化研究所)

「4D-GISによる平安京バーチャル時・空間の構築」

講師：河角龍典(立命館大学文学部講師)

「コンプリート・アーカイブをめざして」

講師：宮原健吾(財団法人京都市埋蔵文化財研究所)

「予測する考古学—埋蔵文化財をめぐる情報環境—」

講師：鋤柄俊夫(同志社大学文化情報学部助教授)

■「科学としての美術批評プロジェクト」公開研究会

2006年1月19日(木) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「システイーナ礼拝堂天井画にみるミケランジェロの色彩用法とその意味」

講師：若山映子(大阪大学大学院文学研究科教授)

■21世紀COEプログラム国際公開講義『Chikamatsu and Kamigata Kabuki: Texts and Images』

2006年1月16日(月)～24日(火) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

講師：Andrew Gerstle(ロンドン大学教授)

第1回「Chikamatsu's Love Suicide plays: Love Suicides at Sonezaki and Love Suicides at Amijima」

第2回「Chikamatsu's Murder Plays:

Futago sumidagawa (act 3), Tsu no kuni meoto ike (act 3), and Onna koroshi abura jigoku」

第3回「Kamigata Kabuki and the visual arts I: Representation of the onnagata in Edo and Osaka」

第4回「Kamigata Kabuki and the visual arts II: Kabuki actors and poetry」

■CMプロジェクト公開研究発表会『今、CMを読みとく—CM映像文化のために—』

2006年1月28日(土) アート・リサーチセンター3F 会議室

「CMプロジェクトとCM研究の現状」

講師：赤間亮(先端総合学術研究科教授)

「“ガイジン”の起用法は、日本人の「元気度」を計る格好のバロメーター」

講師：Jean-Christian Bouvier(「世界のCMフェスティバル」プロデューサー)

<研究発表>

太田乃輔(先端総合学術研究科) 伊東憲弘(先端総合学術研究科)

有川敬子(文学研究科) 堤藤成(産業社会学部)

山田彩音(文学部) 中山悠子(文学部)

■21世紀COE企画展『京都・西陣織「正絵」の知られざる芸術性～織物図案の伝統・折衷・創作～』

2006年1月26日(木)～2月1日(水) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

企画：立命館大学21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」サブプロジェクト「近世京都手工業生産プロジェクト」

■21世紀COE企画展『京焼と登り窯—伝統工芸を支えてきたもの—』

2006年1月30日(月)～2月16日(木) アート・リサーチセンター1F 展示室

企画：立命館大学21世紀COEプログラム「京都アート・エンタテインメント創成研究」サブプロジェクト「近世京都手工業生産プロジェクト」

■21世紀COE国際シンポジウム『データマイニング、仮想環境、及びオンラインコミュニティ』

2006年3月3日(金) BKCキャンパス クリエーションコア 1F会議室

招待講演「Data Mining Based Navigation Assistance Interfaces for Large Virtual Spaces」

講師：Mehmed Kantardzic(ルイヴィル大学)

招待講演「When the power law fails: The case of social networks」

講師：Victor V. Kryssanov（情報理工学部助教授）

COE Postdoctoral Researchers' Poster Session (Poster List)

招待講演「Kernel-Based Pattern Classification」

講師：阿部重夫（神戸大学教授）

「Remote Conference System based on a Mixed Reality Technology」

講師：池田秀人（立命館大学情報理工学部教授）

「Kyoto Virtual Time-Space: A 4D-GIS with VR and Web3D Technologies」

講師：高瀬裕（立命館大学COE推進機構教授）

「Game Mining Technologies for Analysis of Online Game Players」

講師：Ruck Thawonmas（立命館大学情報理工学部教授）

■「科学としての美術批評プロジェクト」公開研究会

2006年3月3日（金） 修学館 第1共同会議室

「フランス近代の美術批評」

講師：大久保恭子（関西外国語大学助教授）

「白樺派とブルームズベリー・グループ」

講師：川田都樹子（甲南大学教授）

「ロジャー・フライと美術批評」

講師：要真理子（大阪大学講師）

■21世紀COEシンポジウム『よみがえる 映画『三朝小唄』の記憶—地域文化と映画—』

2006年3月19日（日） 鳥取県三朝町総合文化ホール

第一部 『三朝小唄』シンポジウム

「『三朝小唄』プロジェクト報告」 富田美香（立命館大学文学部助教授）

「フィルムは生き物なんや —『三朝小唄』復元の記録—」（2005年、15分）

「記憶を紡ぐフィルム —『三朝小唄』の輝き—」（2006年、15分）

「流行歌「三朝小唄」について」講師：大西秀紀（立命館大学COE推進機構客員研究員）

「地域文化と映画文化」講師：川村健一郎（川崎市市民ミュージアム 学芸員）

『三朝小唄』ディスカッション

パネリスト：澤登翠、大西秀紀、川村健一郎 司会：富田美香

第二部 『三朝小唄』上映会（1929年、マキノ御室）復元版35mm18コマ／秒

弁士：澤登翠 ピアノ：村井音文、ギター：湯浅ジョウイチ（楽団カラード・モノトーン）

—————2006年度（2006年4月～12月）

■「科学としての美術批評」プロジェクト講演会

2006年4月17日（月） アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「エドワード・ホッパーと映画」講師：ゲイル・レヴィン（ニューヨーク市立大学教授）

■庶民に愛され続けた上方音楽・地歌の魅力「地歌はおもしろい！」

2006年5月16日（火） 京都府立府民ホールアルティ

主催：京都和文華の会

後援：真如苑

協力：立命館大学アトリサーチセンター

社団法人京都デザイン協会・NPO法人京都文化企画室・NPO法人檜の会

■第43回 藝能史研究会大会 シンポジウム「芸能と絵画資料—浮世絵研究の新次元—」

2006年6月4日(日) キャンパスプラザ京都

基調講演「芸能と画像資料」

講師：木村八重子

報告「演出資料としての黄表紙—「忠臣蔵」七段目を中心に—」

報告者：齊藤千恵

「役者評判記と役者絵—三代目歌右衛門を例に—」

報告者：神楽岡幼子

「黙阿弥作品と絵画資料—『鼠小紋東君新形』を例に—」

報告者：埋忠美沙

まとめ—歌舞伎研究における「役者絵」の可能性

報告者：赤間 亮

■立命館大学映像学部設置準備連続講座「映像—その未知の地平—」映像文化の21世紀的課題 課題1

アート・リサーチセンター2006年度春期連続講演会 第1回

2006年6月9日(金) アート・リサーチセンター多目的ルーム

「大学教育と映像—大学は映像とどう向きあえるか—」

講師：吉本光宏(ニューヨーク大学東アジア学科准教授)

■立命館大学映像学部設置準備連続講座「映像—その未知の地平—」映像文化の21世紀的課題 課題2

2006年7月5日(水) アート・リサーチセンター2F多目的ルーム

「映像の起源を問い直す-エイゼンシュテイン、モンタージュ論と「日本」—」

講師：ミハイル・ヤンポリスキー(ニューヨーク大学芸術・科学学部、ロシア・スラブ研究科教授)

岩本憲児(早稲田大学名誉教授、早稲田大学芸術学校客員教授)

■特別展 「学校法人立命館所蔵 藤井永観文庫の優品～生涯を古美術蒐集に捧げた精華～」

2006年6月3日(土)～2006年7月2日(日) 細見美術館

主催：学校法人立命館 (財)細見美術財団

後援：京都府教育委員会 京都市教育委員会 NHK京都放送局

■アート・リサーチセンター2006年度春期連続講演会 第2回

2006年6月27日(火) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「研究は楽しい—劉生と京都—」

講師：篠 雅廣(高知県立美術館館長)

■アート・リサーチセンター2006年度春期連続講演会 第3回

2006年7月11日(火) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「異国趣味の盛行と南蛮漆器—藤井永観文庫の「かるた遊び図」から—」

講師：源城政好(立命館大学COE推進機構客員研究員)

■アート・リサーチセンター特別公開講座

2006年7月29日(土) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「中国からみた『日本文化』事情と『日本の美』」

講師：蔡 宏（華僑大学講師）

■「京都に咲いた映画文化—マキノ映画の魅力—」

2006年7月16日（日）～8月5日（土） アート・リサーチセンター1F 展示室

主催：立命館大学アート・リサーチセンター

協力：東京国立近代美術館フィルムセンター、京都府京都文化博物館、太田市立新田図書館

■「風俗絵画のメディア性と都市イメージの形成」プロジェクト 第1回研究会

2006年8月8日（火）・9日（水） アート・リサーチセンター3F会議室

■「第十回能装束・能面展 回顧展 ～10年の軌跡～」

2006年8月1日（火）～8月3日（木） 京都文化博物館 6F

主催：（財）片山家能楽・京舞保存財団

後援：京都文化博物館、NHK京都放送局、京都新聞社

協力：立命館大学アート・リサーチセンター

■共同国際シンポジウム「儀礼の力—学際的視座から見た中世宗教の実践世界—」

2006年9月14日（木）・15日（金）アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「呪詛神の祭文と儀礼」報告者：斎藤英喜（佛教大学）

「中世声明の美的表現力と権力」報告者：大内典（SOAS/ 宮城学院女子大学）

「なぜ儀礼が重要か—中世における法華寺の儀式と社会」

報告者：Lori Meeks (University of Southern California)

「密教儀礼と「念ずる力」—『受法用心集』の「髑髏本尊儀礼」を中心にして」

報告者：彌永信美（仏教学研究家）

「二元性の儀礼—不動・愛染と秘力の図像化」

報告者：Lucia Dolce (School of Oriental and African Studies, University of London)

「聖天の縁起とその儀礼—双身歓喜天を中心に」報告者：田中貴子（甲南大学）

「醍醐寺、祈雨修法と清滝権現をめぐる」

報告者：Steven Trensou（京都大学／Ecole Pratique des Hautes Etudes）

「入浴する神輿・神木の『神威』」報告者：松本郁代（日本学術振興会特別研究員）

■立命館大学×オックスフォード大学共同シンポジウム「モノとイメージはどう人々をつくるのか？」

2006年9月26日（火）～2006年9月30日（土） 東京国際フォーラム、以学館1号ホール

「考古学的物質科学—「物質」と「文化」関係」報告者：Mark Pollard（オックスフォード大学教授）

「洛中洛外図屏風から歴史的イメージを読みとる」報告者：川嶋將生（立命館大学文学部教授）

「ヴィクトリア&アルバート美術館のコレクションに見る日本認識の変化」

報告者：Greg Irvine（ヴィクトリア&アルバート美術館主任学芸員）

「デジタルアーカイブ：情報技術による文化財および文化資料のデジタル化・保存・流通・再現」

報告者：八村広三郎（立命館大学情報理工学部教授）

「人知と先史学：身体、感覚、モノの役割に対する理解」

報告者：Chris Gosden (オックスフォード大学ヨーロッパ考古学教授)

「デジタルゲームによる情報環境の変容：双方向性、触覚性と環境認識」

報告者：細井浩一 (立命館大学政策科学部教授)

「イメージと歴史：紀元1世紀におけるアフロディシアスのセバステイオンのレリーフについて」

報告者：Roland Smith (オックスフォード大学リンカンコレッジフェロー)

「考古資料の顔を読む—先史時代の人形表象研究への新視点—」 報告者：松本直子 (岡山大学助教授)

「“縄文美学”は存在するか？」 報告者：Simon Kaner (セインズベリ日本芸術研究所)

「Novum Inventorium Sepulchrale：アングロ・サクソン期のイギリスのイメージ」

報告者：Helena Hamerow (オックスフォード大学考古学研究所)

「無形文化のイメージ資料集積と演技の再現—歌舞伎の場合—」 報告者：赤間 亮 (立命館大学文学部教授)

「地図情報システムによる過去の景観理解について」 報告者：Gary Lock (オックスフォード大学教授)

「バーチャル時・空間を体験する」 報告者：矢野桂司 (立命館大学文学部教授)

特別講演「科学映像の持続性—一次世代への警鐘—」 講師：大森康宏 (国立民族学博物館教授)

■CMプロジェクト公開講演会「企画する力。」

2006年10月11日 (水) 衣笠キャンパス 以学館2号ホール

講師：岡康道 (クリエイティブ・ディレクター)

■アート・リサーチセンター2006年度秋期連続講演会 第1回

2006年11月6日 (月) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「カリフォルニア大学バークレー校における日本古地図のデジタル化について—新たなパースペクティブを求めて」

講師：石松久幸 (カリフォルニア大学バークレー校東アジア図書館司書)

■立命館大学映像学部設置準備連続講座「映像—その未知の地平—」映像文化の21世紀的課題 課題3

2006年11月9日 (木) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「映像文化の基盤を問い直す—撮影所— バーベルスベルクの場合」

講師：フランク・ゲスナー (バーベルスベルク映画・テレビ大学副学長)

■アカデミックゲームイベント game++8 「“ゲーム”は本当に教育に役立つか—海外の先端事例をめぐって」

2006年11月11日 (土) 以学館1号

「海外におけるシリアスゲームの最先端：エンタテインメント・ゲームの可能性はどこにあるか」

報告者：藤本 徹 (ペンシルバニア州立大学大学院)

「コンピュータゲームを媒介とした協調学習活動の可能性：米国における第5次元プロジェクトの取り組み」 報告者：稲葉光行 (カリフォルニア大学サンディエゴ校客員研究員、立命館大学)

コメンテーター：市川 新 (JASAG会長、流通経済大学)、三橋秋彦 (JASAG理事、墨田区立竪川中学校)

■アート・リサーチセンター2006年度秋期連続講演会 第2回

2006年11月13日 (月) アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「後白河院と今様」

講師：龐谷 寿（同志社女子大学特別任用教授）

■国際公開講義「日本宗教とは何か—日本宗教を見直す」

2006年11月14日（火）～2006年11月16日（木） アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

講師：ルチア・ドルチェ

第1回「How do we study Japanese religion?」

第2回「The combinatory nature of Japanese religion」

第3回「Scriptures and hermeneutical practices」

■モーションキャプチャ技術と身体動作処理

2006年12月1日（金）・2日（土） 創思館1F カンファレンスルーム

「Dance Archive Project」報告者：八村広三郎（立命館大学情報理工学部教授）

「Exploring New Interfaces for Communication and Expression」講師：Michael J. Lyons(ATR)

「Progress in Real Time Motion Capture Systems」講師：John O.B. Greaves (Motion Analysis Corp.)

招待講演「A Movement-based Interactive Environment for Applications in Dance」

講師：Jodi James(Arizona State University)

「日本大学ORCNANAプロジェクト：日本舞踊の動作解析と3DCGの作成」

報告者：丸茂美恵子・篠田之孝・入江寿弘・川上央・三戸勇氣・渡沼玲史（日本大学）

「Identification of Motions in Japanese Traditional Dancing」

報告者：吉村ミツ（立命館大学COE推進機構教授）

「Nigerian Dances and Motion Capture」報告者：高橋京子（立命館大学）

「A study on motion characteristics of the hands, fingers, and the face in Balinese dance」

報告者：中村美奈子（お茶の水女子大学）、小島一成（神奈川工科大学）

「CG Reproduction of Noh-play and its Use for Edutainment」

報告者：古川耕平（立命館大学COE推進機構ポストドクトラルフェロー）

「Quantification of Dance Movement by Simultaneous Measurement of Motion Capture and Biophysical Information」報告者：崔雄（立命館大学COE推進機構ポストドクトラルフェロー）

ナックイメーজテクノロジー営業技術部によるモーションキャプチャ新機能のデモ

■アート・リサーチセンター2006年度秋期連続講演会 第4回

2006年12月8日（金） アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム

「与謝蕪村と京都」

講師：松本節子（摂南大学外国語学部教授）

■京町家・近代建築GISデータベースの整備と活用に関するセミナー

2006年12月13日（水） 歴史都市防災研究センター 地階 カンファレンスホール

■「風俗絵画のメディア性と都市イメージの形成」プロジェクト 第2回研究会

2006年12月26日（水）・27日（水） アート・リサーチセンター2F 多目的ルーム